



阪大初の試み～産研定例記者会見スタート!!

Page

2 産研定例記者会見スタート!!

第2回大阪大学総長顕彰、総長奨励賞、第5回総長表彰

3 学振・拠点形成プログラム、頭脳循環プログラム国際会議

米国・ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所を訪問して
韓国原子力開発機構放射線装置研究部
一量子ビーム科学研究施設施設間、技術協力同意書締結

4 平成25年度第2回(通算第68回)産研テクノサロン

ものづくり教室2013開催
武庫川女子大学附属高校ほか高校生の施設見学

5 産研フェスタ開催

第2回 産研所長杯フットサル大会開催
総合解析センター機器講習会
産研安全講習会

産研グローバル若手研究者育成プログラム
国際インターンシップ滞在記

6 Hot Topics—最近の研究成果

武井 史恵助教が日本女性科学者の会奨励賞を受賞

7 NEWS@SANKEN

新任教職員の紹介

・筒井 真楠 准教授 ・吉田 秀人 准教授 ・松田 知己 准教授
・開発 邦宏 特任准教授(常勤) ・金井 康 助教 ・相川 春夫 特任助教(常勤)
・韓 珍珉 特任技術職員 ・樋口 雄介 助教

8 受賞一覧(平成25年6月1日～平成25年9月30日)

平成25年6月2日～平成25年9月30日新任教職員一覧
平成25年6月2日～平成25年9月30日離任教職員一覧
編集後記

産研定例記者会見 7月23日スタート!!

産業科学研究所では、研究成果等をより積極的に情報発信するため、毎月の定例記者会見を開始しました。阪大全体でも初の試みとなった定例記者会見の開催は、今年3月より企画室、産学連携室、事務部と共に準備を進め、阪大広報課の協力を得て実施に至りました。

大阪大学中之島センターで開催した記念すべき第1回(7月23日)では、八木康史所長と能木雅也准教授、第2回(8月20日)は小林光教授、開発邦宏特任准教授の会見が行われました。おかげさまで多数のマスコミ関係者に取材頂き、テレビ、ラジオ、新聞等で34件の報道がありました。

今後も毎月第3火曜日、大阪大学中之島センターでの実施を基本に、産研に所属する研究者の最新の研究動向や成果、そして今後の発展等についてわかりやすく情報を発信しますので、どうぞご期待ください。

(広報室長 吉田 陽一)



【第1回 (7月23日実施)】

歩けばピタリと当たる「未来科学捜査」歩容鑑定いよいよ本格スタートへ!! (八木康史教授)

透明な電気配線 ~紙だからできる!~ (能木雅也准教授)

【第2回 (8月20日実施)】

真っ黒なシリコンウェーハをわずか20秒で形成:太陽電池の高効率化と低コスト化に大きな寄与 (小林光教授)

インフルエンザウイルスの遺伝子をその場で診断できる新規核酸デバイスを開発 (開発邦宏特任准教授)



記者会見に関する情報は、産研HPよりご覧頂けます。
←トップページより「産研定例記者会見」をクリック

第2回大阪大学総長顕彰・総長奨励賞、第5回総長表彰

8月2日(金)、第2回大阪大学総長顕彰・総長奨励賞の表彰式をコンベンションセンターMOホール(吹田キャンパス)で開催しました。総長顕彰は、大阪大学に勤務する教員のうち、教育、研究、社会・国際貢献又は管理運営上の業績が特に顕著であると認められた者を顕彰し、大学の一層の発展を期することを目的として行われます。総長奨励賞は、若手教員(概ね40歳以下の者。)のうち、教育及び研究の業績があると認められるなど、同分野で将来活躍することが期待される者を顕彰し、奨励することを目的として行っています。

また、第5回大阪大学総長表彰の表彰式が5月31日、6月7日に行われました。同賞は、賞の受賞や資格の取得等により、本学の発展に寄与した教職員を表彰し、総長から直接労いの言葉をかけ、懇談する機会を設けることを目的としています。産業科学研究所からは、9名が受賞しました。

(広報室)

【総長顕彰受賞者(研究部門)】

小林 光 教授	菅沼 克昭 教授	竹田 精治 教授	谷村 克己 教授
永井 健治 教授	中谷 和彦 教授	松本 和彦 教授	八木 康史 教授
山口 明人 特任教授(常勤)	西野 邦彦 准教授	能木 雅也 准教授	
向川 康博 准教授	柳田 剛 准教授		

【総長奨励賞受賞者(研究部門)】

家 裕隆 准教授	河原 吉伸 准教授	多根 正和 准教授	筒井 真楠 准教授
堂野 主税 准教授	立川 貴士 助教	長島 一樹 特任助教(常勤)	
福井 健一 助教	榎原 靖 助教	山本 洋輝 助教	

【第5回総長表彰】

沼尾 正行 教授	真嶋 哲朗 教授	満上 育久 助教	立川 貴士 助教
大西 政義 係長(技術室)	奥村 由香 技術職員	松下 雄貴 技術職員	
古川 和弥 技術職員	羽子岡 仁志 技術職員		

学振・拠点形成プログラム、頭脳循環プログラム国際会議

産研では現在、以下の2つの学振国際プログラムが進行中です。

1.頭脳循環プログラム(テーマ:最先端国際ナノデバイス研究コンソーシアムへの派遣によるグローバル若手研究者の育成、実施期間:3年間、代表者:菅沼克昭、内容:ベルギーimecへの若手研究者長期派遣、研究所間交流)。2.先端拠点形成プログラム(テーマ:健康と安心安全を支援する高度センシング技術開発に関する国際研究拠点形成、実施期間:5年間、代表者:松本和彦、内容:海外6拠点のimec、オックスフォード大学、パリ南大学、ノルウェー科技大学、マックスプランク研(Mainz)、パデュー大学との連携研究、研究交流)。

これら2つのプログラムでの国際連携を強化する目的で、6月17、18日に、ベルギーのルーベン市にあるimecにて、1st International (kick off) Conference of SANKEN Core to Core Program、2nd imec-HANDAI International Symposium (Symposium of SANKEN Brain Circulation Program)が続けて開催されました。前者では19件、後者では7件の発表がありました。産研からは15名が参加し、計79名の参加を得て、連携研究に関する活発な討論が行われました。

(特任教授 小倉 基次、弘津 禎彦)



imec社長 Van den Hove氏の挨拶



交流風景



会議参加者の集合写真

米国・ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所を訪問して

本年1月7日に産研と学術交流協定を締結した米国・ミネソタ大学バイオテクノロジー研究所(BioTechnology Institute, BTI)を八木、加藤、中谷、西野(敬称略)の先生方と共に8月21~24日の旅程で訪問しました。同大学とは、近々、本学工学研究科生命先端工学専攻も部局間学術交流を締結予定で、今年度中にも阪大全体での大学間学術交流協定に発展させるべく準備が進められています。今回の目的は、BTIを訪問してバイオ系研究について情報交換を行い、交流のきっかけをつくるというものでした。21日はミネソタ大学バイオリソースセンターのTim Tripp氏がミネアポリス空港まで出迎えて下さり、その夜はBTIディレクターのMichael Sadowsky氏も交えたディナーで旅の疲れを癒しました。翌22日はSadowsky氏によるウェルカムスピーチに始まり、続いて八木所長が産研の概要をお話しされ、その後、産研、BTIの各先生方の研究が紹介されました。BTIでは微生物を巧みに用いたバイオ燃料やバイオ電池の開発などまさにバイオテクノロジーの先端を行く研究が展開されているとの印象を強く持ちました。ランチの後は産研の各先生方がそれぞれ個室に案内され、そこにBTIの先生が入れ代わり立ち代わりやってきてお互いの研究についてディスカッションする「分科会」が開催されました。これによりお互いのマッチングの方向性が見えてきた気がします。その後、郊外の公園まで車で移動し、バーベキューパーティーでアメリカのお肉を堪能し、お開きとなりました。滞在期間は僅かでしたが、かなり密度の濃い交流ができ、今後産研バイオ系との交流を大いに図っていくことで合意が得られました。

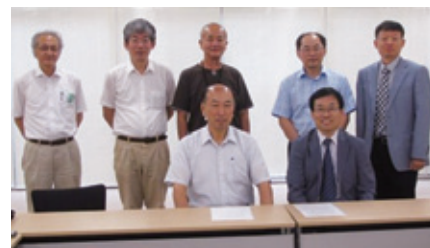


(生体分子機能科学研究分野 永井 健治)

韓国原子力開発機構放射線装置研究部—量子ビーム科学研究施設間、技術協力同意書締結(2013年7月4日)

量子ビーム科学研究施設では、これまで韓国原子力開発機構放射線装置研究部と研究交流を行って来ました。今年になって、両部局において更なる技術協力、放射線利用共同開発などを積極的に推進するため、上記のように技術協力同意書の締結することになりました。まず、2013年1月30日-2月1日の2日間に渡り、先方からByung Chol Lee博士、Byungnam Kim博士、Do Hung Han教授および学生1名が当施設に来訪され、放射線加速器、特に、パルスラジオリシス装置の韓国初の開発計画や、技術協力同意書について議論しました。その後、本年5月に先方で開催のシンポジウムに真嶋が特別講演者として招待され、当施設のパルスラジオリシス研究について紹介するとともに、両部局の技術協力同意書について確認しました。そして、2013年7月4日に先方から、この部門の責任者のHyunki Cha博士、および研究グループのKang-Hoon Ko博士、Dukhyeon Kim教授が当施設に来訪され、技術協力同意書を締結しました。また、当施設の誉田義英准教授、および関連研究室の磯山悟朗教授、吉田陽一教授、古澤孝弘教授、楊金峰准教授、藤塚守准教授などの参加の下、放射線装置開発、共同利用研究、あるいは量子ビーム科学の重要性と、将来展望に関する活発な議論を交わすことができました。

写真は、技術協力同意書を締結したところで撮影しました。



(量子ビーム科学研究施設長 真嶋 哲朗)

平成25年度第2回(通算第68回)産研テクノサロン

「グリーンテクノロジー再考」と題し、今回は広い範囲にわたるグリーテクノロジーの中でも、光合成などのエネルギー変換にまつわる技術をテーマに、産研テクノサロンが8月2日開催されました。講演会では、産研にも在籍されたことのある京都大学の今堀博教授から「分子・界面設計からの人工光合成・有機太陽電池への取り組み」について、パナソニック(株)の四橋聡史氏から「人工光合成への無機化合物からの取り組み」について、そして産研の真嶋哲朗教授から「光エネルギー変換系におけるナノ光触媒」についてご発表いただきました。また京都工芸繊維大学名誉教授の奥彬先生には「バイオマスに関する考え方」について講演していただきました。見学会では、ビデオによる真嶋研究室、および実地の量子ビーム科学研究施設を見ていただきました。

産業界から多くの方が参加され、エネルギー変換に関する関心の高まりが感じられ、学界と産業界の交流と切磋琢磨による持続可能な社会に向けた取り組みに期待が寄せられました。

(産学連携室 清水 裕一)



講演会



見学会



親睦交流会

ものづくり教室2013開催

技術室主催で平成25年8月7日から9日までの3日間、小中学生を対象とした「ものづくり教室」を開催しました。この行事は平成18年から始まり、21世紀懐徳堂の後援もいただき今年で7年目を迎えました。この6年間は、ガラス加工・金属加工・電子回路の3つのテーマに分かれて行い、スタッフも最初の頃に比べて随分とこの行事に慣れてきました。そこで今年は「これまでとは違う『ものづくり教室』を開こうではないか!」という案が立ち上がり、若手メンバーでWGを構成し何度も試作を行った結果、「アルギン酸ビーズと手作りウッドクラフトでクリスタルオブジェを作ろう!」という1つだけのテーマにしぼり、スタッフ全員でそのテーマに取り掛かることになりました。内容としては、子供たちには化学実験と木工作業を体験してもらい、ガラス加工を見学してもらうというものです。子供たちは、カラフルにできるアルギン酸ゲルに目を輝かせており、化学の楽しさの一端を実感していたかと思えます。木工作業においては普段使用しない工具を使って、真剣な眼差しでオリジナルのオブジェ作りに専念している姿が印象的でした。ガラス加工の見学においても、炎の中で変化するガラスの形に驚きの声があがりました。また、産研の先生方の講演の時間も設け、子供たちには少し難しかったかもしれませんが、保護者の方と一緒に科学の面白さと、大阪大学や産研について知ってもらえたかと思えます。

参加希望者は240名で、抽選により3日間で54名が参加しました。

技術室は「創る・測る・知らせる」という3つの要素を担当する組織です。今回は皆の専門分野を融合したテーマを目指してきましたが、まだまだ発展する余地がありそうです。また、子供たちの安全性を考慮すると、少人数のクラスとなり、昨年よりも参加できる人数を減らせざるを得ないため、たくさんの方の希望に添えなかったことが残念です。その他にも初めての試みから反省材料も多く出てきましたが、今年限りの変化にはならず、来年度に向けてさらに発展できるようにスタッフ一同取り組んでいきたいと思っています。

(技術室 奥村 由香)



武庫川女子大学附属高校ほか高校生の施設見学

7年目となった武庫川女子大学附属高校の見学会が、6月25日(火)に行われました。武庫川女子大附属高校はSSH(スーパーサイエンスハイスクール)に採用されており、高校と大学の連携による先進的理数教育の一環として、1年のSSクラス36名が3名の先生方と共に産研を訪れました。見学会では、吉田陽一広報委員長から産研が紹介された後、加藤教授から「生理活性物質と創薬」、吉田研 近藤助教から「分子の動きを見る装置 -パルスラジオリシス-」、安蘇研 家准教授から「エネルギー変換と有機エレクトロニクス」、永井教授から「光で操る傾向ライブイメージング」と題し、高校生にも分かりやすい研究紹介が行われました。その後各研究室と量子ビーム科学研究施設の見学が約1時間あまり行われました。このうち17名の学生は、7月下旬から8月中旬にかけて各研究室で研究体験を行いました。

このほか、8月7日に石川県・私立星稜高等学校、8月26日四条啜り高校からの高校生の見学を受け入れ、合計128名の生徒さん達が量子ビーム科学研究施設、総合解析センター、ナノテクノロジー設備供用拠点を訪れました。

(広報室)



産研フェスタ開催

恒例の産研フェスタが、7月12日(金)に産研講堂で開催されました。今年は、約300名の参加者と10店舗の模擬店出店がありました。まず、八木所長による開会挨拶の後に、大縄跳び大会と(劇的な決勝戦が紹介された)フットサル大会の表彰式が行われました。有志の模擬店紹介では、各店舗の商品に対するこだわりを感じました。さらに、今年は、産研内から有志の落語が披露され、会場を盛り上げて頂きました。バンド演奏では、多くの方がステージ前に集まり、楽しいひと時を過ごしていました。抽選会では、永井教授と山口係長の進行により、抽選毎に歓声が沸き、盛況のうちに終了しました。

最後に、産研フェスタ2013に参加頂きました皆様、開催に協力頂いた院生会議、女子部、事務部、教授会、職員組合の皆様へ深く感謝申し上げます。



(産研フェスタ実行委員会 菅 晃一)

第2回 産研所長杯フットサル大会

今年もスポーツを通じて親睦を深める目的で、5月27日から7月12日にわたり第2回 産研所長杯フットサル大会が開催されました。昨年からの要望を受けてルールを改正し、女性もしくは45歳以上のプレーヤーがゴールした場合は、得点が2点となります。16チーム、総勢192名のエントリーがあり、4ブロックに分かれたリーグ戦が行われ、各ブロックの上位2チームが最終トーナメントに進みました。今年度は天候に恵まれ、連日の猛暑に負けじと熱戦が繰り広げられました。決勝は延長戦が続き、誰もが手に汗握る中、ついにHuit Arbres(八木研)チームが所長杯を征しました。

開催に当たり、教職員、院生会議等から多数の有志が実施委員会に参加していただき、準備、進行が行われてきました。また、関係各位には開催に際して、多大のご支援をいただき、大会が無事終了しましたことを、ここに感謝いたします。

(産研所長杯フットサル大会実施委員会 委員 藤本 将輝)



左 優勝 Huit Arbres(八木研)
中 準優勝 FC加藤(加藤研)
右 3位 田中研・最先端プロジェクト

総合解析センター機器講習会

総合解析センターでは、産研内、阪大内の研究者の共同利用を積極的に支援しています。4月の新入生のための機器分析講習会を皮切りに7月まで、28種類の講習会を開催しました。実習を伴う少人数の講習会は複数日設定され、合計68回、参加者の延べ人数は366人(うち所外受講者164人)に到ります。この講習会には科学教育機器リノベーションセンターのサポートスタッフの横井絵美特任技術職員や藤崎充氏による講習会も多数含まれます。またサイバーメディアセンターの協力の下、今年度行われたChemBioOffice講習会は初めて豊中、吹田の両会場あわせて100名を超える受講者を記録しました。

近年、秋入学の留学生も増え、総合解析センターでは秋の講習会も行っています。詳しくはホームページに最新情報を掲載しますので、ぜひご活用ください。

(総合解析センター 鈴木 健之)



新入生のための機器分析講習会(産研講堂)

産研安全講習会開催

産研安全講習会が平成25年5月29日(水)に管理棟講堂において教職員、学生、研究者、他学部、他大学など合わせて45名が参加して開催されました。午前に行われたバイオセーフティ講習会に続き、午後では「安全に研究を行うために」と題しまして安全衛生管理委員会の加藤教授の挨拶から始まり、技術室メンバーと安全衛生管理部の兼松特任技術職員が専門分野を担当して講習を行いました。

項目は「大学内における安全衛生管理」「実験に関する諸注意」「所内における、より良い生活環境のために」、「産研ネットワーク利用上の注意事項」、「工作機械・工具を安全に使用するために」、「ガラスの取扱いでケガをしないために」、「ガスを安全に取り扱うために」、「高圧ガス管理システムについて」「試薬管理システムについて」とどれも研究、実験を進めるうえで欠かせない内容だったと思います。

講演したスライドは技術室ホームページから閲覧可能になっていますので、必要になった際は読み返ししながら安全に研究を行っていただきたいと思います。

(技術室 松崎 剛)



産研グローバル若手研究者育成プログラム 国際インターンシップ滞在記

産業科学研究所では、国際的視野を有するグローバル若手研究者育成のため国際インターンシップを実施しています。なお、本インターンシップは、大阪大学未来戦略の推進に係る事業に選ばれています。

imecでのインターンシップでは、海外の仕事の雰囲気や、海外で働く日本企業の方々を知ることができ、大変良い経験をさせてもらいました。1ヶ月という短い期間のインターンシップでは、様々なトラブルが生じたということもあり、成果を出すということは困難でしたが、それでも、世界有数の研究機関で学び、意見の交換を行ったこと、imecの方々やimecで働く日本企業の方々との交友関係を築けたこと、また、インターンシップという形で、1ヶ月間英語で生活したことは自分にとって大きな財産になったと考えております。巨大なクリーンルームに入り、実際に装置を扱うというのも良い体験でした。imecのあるLeuvenの町も非常に綺麗で住みやすく、楽しみながらインターンを終えることができました。このような機会を与えて頂き、感謝いたします。

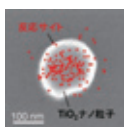
(竹田研究室(M1)玉岡 武泰)



建設中のimec5

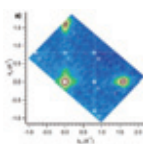
Hot Topics—最近の研究成果

研究成果をピックアップしてお伝えします。詳細は、産研ホームページHot Topicsよりご覧ください。



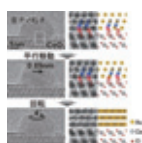
単一分子観察用の高感度水溶性蛍光プローブの開発と酸化チタン光触媒反応の超高解像マッピング

真嶋哲朗教授(励起分子化学研究分野)
【掲載】アメリカ化学会「ACS Nano」ACS Nano, 7(1), 263-275 (2013)



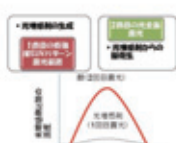
2つの絶縁体間の界面に生じる金属層の電子構造を解明—究極の省エネ ナノデバイスへの応用に期待—

菅滋正特任教授(量子ビーム発生科学研究分野)
【公開】「Physical Review Letters」オンライン版
(2013年6月17日(米国時間))



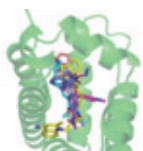
触媒活性中の金ナノ粒子の原子スケール微小運動を観測

竹田精治教授(ナノ構造・機能評価研究分野)
【公開】「Nano Letters」オンライン版(2013年6月20日)



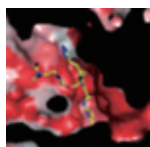
次世代の半導体製造の速度を10倍以上にする技術を確認 極端紫外線(EUV)リソグラフィの実現へ大きな一歩

田川精一招へい教授(ナノ極限ファブ리케이션研究分野)



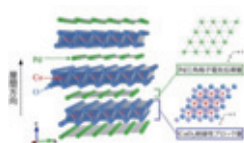
多剤排出タンパク質の発現にブレーキを掛ける機構を解明! —細菌の抗菌薬抵抗性制御への戦略的治療へ光—

西野邦彦准教授(感染制御学研究分野)
【公開】Nature Publishing Group「Nature Communications」オンライン速報版
(2013年6月26日)



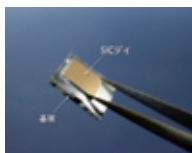
多剤排出タンパク質の阻害剤結合構造決定に初めて成功 大きな社会問題となっている多剤耐性菌感染症克服に手がかり

山口明人特任教授(生体防御学研究分野)
【公開】「Nature」オンライン速報版(2013年6月30日(英国時間))



単純な金属を磁気センサーに応用できる新メカニズムの発見 350倍もの磁気抵抗効果を実現し、新たなデバイス作成への道筋を明らかに

小口多美夫教授(ナノ機能予測研究分野)
【掲載】「Physical Review Letters」 111巻5号(2013年8月2日)



SiC半導体を光で瞬時に常温接合することに成功 従来の360倍の速さで接合処理が可能に

菅沼克昭教授(先端実装材料研究分野)

武井史恵助教が日本女性科学者の会奨励賞を受賞

武井史恵助教(精密制御化学研究分野)が、2013年度(第18回)日本女性科学者の会奨励賞を受賞しました。この賞は、優れた研究業績をあげ、その将来性を期待される女性研究者に対し贈られるものです。

武井助教は、PCR(ポリメラーゼ連鎖反応)で確定診断を行っている現行のウイルス感染の検出において、感染現場において検出可能であり、安価でかつ迅速な高感度検出手法となり得る「ヘアピンプライマー(HP)-PCR法」を新規に開発し、その真の実用化に向けて着実な研究成果を重ねるなど、女性研究者としての真摯な努力が高く評価されたものです。

贈呈式・受賞者記念講演会は6月30日に学士会館(神田一ツ橋)で開催されました。
研究課題: 蛍光標識を必要としない革新的遺伝子一塩基の蛍光検出法の開発

(広報室)



NEWS@SANKEN

●これから開催の講演会・シンポジウム

第69回(平成25年度第3回)産研テクノサロン

「期待される産研ベンチャー」

日 時：2013年11月8日(金) 13:30~17:15

場 所：大阪大学産業科学研究所

インキュベーション棟1F 講義室

大阪大学中之島サイエンスカフェ

「高校生にはわかるまい!物理学の最前線:トポロジカル絶縁体」

(安藤 陽一教授)

日 時：2013年11月8日(金)18:30~20:00

場 所：アートエリアB1

(京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階コンコース)

大阪大学産業科学研究所 第69回学術講演会

「産業科学の未来戦略」

日 時：2013年11月15日(金)

ポスターセッション 10:00~ 講演 13:00~

場 所：大阪大学産業科学研究所 管理棟1F 講堂

The 17th SANKEN International Symposium 2014

Joined with The 2nd International Symposium

of Nano-Macro Materials, Devices,

and System Research Alliance Project

“HUMAN SENSING considering from the behavior
of substances ranging from molecules to organisms”

日 時：2014年1月21日(火)・22日(水)

場 所：大阪大学 銀杏会館



●テレビで紹介されました

関西テレビ「よ〜いドン!・関西ちなみにガイド」6月25日放映の大阪大学特集のコーナーで、セルロースナノファイバー材料研究分野が銀シャリのレポートで紹介されました。

新任教職員の紹介

※平成25年6月~平成25年9月に着任された新任教職員の所属、氏名は8頁に掲載しております。



バイオナノテクノロジー研究分野

准教授 筒井 真楠

平成25年6月16日付でバイオナノテクノロジー研究分野に准教授として着任しました。1分子計測技術を取り入れた新しい生体分子検出原理や検出デバイスをつくりながら、単一・少数分子系に現れる未知な現象を開拓していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ナノ構造・機能評価研究分野

准教授 吉田 秀人

平成25年7月1日付で、ナノ構造・機能評価研究分野(竹田研究室)に准教授として着任いたしました。環境制御型透過電子顕微鏡を用いて、様々なナノ材料の構造、生成機構、機能発現機構に関する研究に取り組みます。どうぞよろしくお願いいたします。



生体分子機能科学研究分野

准教授 松田 知己

平成25年8月1日付で生体分子機能科学研究分野(永井研究室)の准教授に昇任いたしました。蛍光タンパク質プローブ開発とそれらを用いた分子イメージングによる生命現象の解明を進めていきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。



医薬品化学研究分野

特任准教授(常勤) 開發 邦宏

平成25年6月16日付で医薬品化学研究分野の特任准教授として着任しました。主にウイルス感染症に対する感染阻害薬、診断薬の創製に励んでおります。どうぞよろしくお願いいたします。



半導体量子科学分野

助教 金井 康

平成25年8月1日付で半導体量子科学分野(松本研究室)の助教に着任いたしました。カーボンナノチューブやグラフェンを用いたバイオセンサーや量子デバイスの研究に取り組みたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



医薬品化学研究分野

助教 樋口 雄介

平成25年9月16日付で医薬品化学研究分野(加藤研究室)の助教に着任いたしました。有機低分子化合物によるタンパク質間相互作用の制御に関する研究に取り組みたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



精密制御化学研究分野

特任助教(常勤) 相川 春夫

平成25年8月16日付で精密制御化学研究分野に特任助教として着任致しました。これまでの反応開発、超分子化学、ペプチド化学の経験を活かして核酸の研究に取り組みます。どうぞ宜しくお願い致します。



生体防御学研究分野

特任技術職員 韓 珍珉

平成25年9月1日付で生体防御学研究分野(山口研究室)の特任技術職員に着任いたしました。多剤排出膜蛋白質の大量精製と結晶化をしています。どうぞよろしくお願いいたします。

改組のお知らせ

2013年4月より、研究分野名・名称が変わりました。

第1研究部門 (旧)知識システム研究分野 → (新)知識科学研究分野

受賞一覧(平成25年6月2日～平成25年9月30日)

八木 康史	2012年度IPJS Transactions on Computer Vision and Applications Outstanding Paper Award	情報処理学会
沼尾 正行	人工知能学会研究会優秀賞	人工知能学会
福井 健一	〃	〃
來村 徳信	人工知能学会 研究会優秀賞	人工知能学会
來村 徳信	人工知能学会 論文賞	人工知能学会
谷口 正輝	花王研究奨励賞「表面の科学」化学・物理学分野	花王芸術・科学財団
谷口 正輝	第5回ドイツ・イノベーション・アワード 「ゴットフリート・ワグネル賞2013」最優秀賞	ドイツ 科学・イノベーション フォーラム 東京、在日ドイツ商工会議所
武井 史恵	日本女性科学者の会 奨励賞	日本女性科学者の会
八木 康史	MIRUフロンティア賞	第16回画像の認識・理解シンポジウム
向川 康博	〃	〃
Md. Abdul Mannan	〃	〃
八木 康史	MIRUデモ発表賞	第16回画像の認識・理解シンポジウム
榎原 靖	〃	〃
村松 大吾	〃	〃
藤原 宏平	応用物理学会講演奨励賞	応用物理学会
多根 正和	優秀発表賞	文部科学省科学研究費補助金「新学術領域研究」シンクロ型LPSO構造の材料科学 — 次世代軽量構造材料への革新的展開 —

新任教職員一覧(平成25年6月2日～平成25年9月30日)

平成25年 6月16日	准教授(バイオナノテクノロジー) 特任准教授(常勤)(医薬品化学) 特任研究員(常勤)(精密制御化学)	昇任 採用 〃	筒井 真楠(バイオナノテクノロジー 助教から) 開発 邦宏(医薬品化学 助教から) MUKHERJEE Sanjukta
平成25年 7月 1日	准教授(ナノ構造・機能評価)	昇任	吉田 秀人(ナノ構造・機能評価 助教から)
平成25年 7月16日	特任研究員(機能物質化学) 特任研究員(量子ビーム科学研究施設)	採用 〃	BUDAKOTI Asha 徳地 明
平成25年 8月 1日	准教授(生体分子機能科学) 助教(半導体量子科学) 特任研究員(量子機能材料)	昇任 採用 〃	松田 知己(生体分子機能科学 助教から) 金井 康 NOVAK Mario
平成25年 8月16日	特任助教(常勤)(精密制御化学)	〃	相川 春夫
平成25年 9月 1日	特任研究員(ナノ機能予測) 特任技術職員(第3プロジェクト(生体防御学))	〃 〃	Mohammad SHAHJAHAN 韓 珍珉
平成25年 9月16日	助教(医薬品化学)	〃	樋口 雄介

離任教職員一覧(平成25年6月2日～平成25年9月30日)

平成25年 6月28日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	任期満了	趙 大源
平成25年 7月30日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	〃	金 成植
平成25年 7月31日	特任研究員(第2プロジェクト(セルロースナノファイバー材料)) 技術補佐員(医薬品化学)	退職 〃	乾 哲治 福岡 宇紘
平成25年 8月30日	外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	任期満了	MOHAMMED Atif Mossad Ali
平成25年 9月27日	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	〃	MOZUMDER Asokendu
平成25年 9月30日	特任研究員(ナノテクノロジー設備供用拠点) 特任研究員(ナノテクノロジー設備供用拠点) 招へい教授(産業科学ナノテクノロジーセンター)	退職 〃 任期満了	DANG Tuan Nguyen DINH Cong Que 塚本 史郎

編集後記

ニュースレターをお読みいただきありがとうございます。今号では5月末から9月中旬までの出来事を記事の対象としてお伝えさせて頂きましたが、産研定例記者会見を初めとして掲載の候補となる記事が多数集まりレイアウトに悩む程で、産研のアクティビティーの高さを感じさせられました。ご多忙中、御執筆下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。

(松田 知己、竹中 和浩)

産研ニュースレター

2013.10 第50号

発行：大阪大学 産業科学研究所 編集：産研広報室

〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1
TEL: 06-6879-8387 FAX: 06-6879-8509
URL: <http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/>
E-mail: kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp